

# あじさい



第 120 号

2024 年 3 月  
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



# 鳥の換羽 (連載第 2 回)

## 第 1 回冬羽と成鳥冬羽との識別

津市 平井 正志

### はじめに

鳥の羽衣や換羽について詳しくない方は前号の記事（しろちどり 118 号、鳥の換羽について）を読み返してから今回の記事をお読みいただくと、理解が深まります。

秋にみられる鳥には、当年生まれの鳥、すなわち第 1 回冬羽 (First Winter: 1W) と、繁殖を終えた成鳥冬羽 (Adult Winter: AW) がある。この両者の大きさはほとんど変わらない。多くのバードウォッチャーは区別せずに見ている。ただし、いくつかの鳥では野外で識別ができる。シロハラなどの大型ツグミ類の 1W は翼の大雨覆に白っぽい斑点のある幼羽が残る。また、ホオジロ類の尾羽の幼羽は先端が尖っている。以下、詳しく説明しよう。スズメ目で、三重県内でよく見られ、野外でも区別の容易な種を紹介する。

### オオルリとキビタキ

秋に見られるオオルリのオス 1W では頭、胸は、オリーブ色がかった褐色（以下オリーブ褐色）。肩羽、翼、尾などは青色である。

このオス 1W は全身が青い繁殖を終えた親鳥 (AW) とは一目で区別ができる (図 8)。この 1W の大雨覆 (Greater Coverts: GC) には幼羽が残る。図 8 では GC の内側 2 枚は換羽して青いが、その他は幼羽であり、先端が淡色である。一方、キビタキではオスでも 1W ではメスと同様に、全身がオリーブ褐色であり、キビタキ特有の白やオレンジの色は全くないし、オスメスの識別ができない (図 9)。

一方、オス成鳥冬羽 (AW) では夏羽と同じく、白、黄色、黒の派手な色合いであり、これとは区別できる。1W は GC の先端が淡色であり、メスの AW とは区別できる。なお、オオルリのメスも同じ様な色合いなので注意が必要。

## 目次

鳥の換羽 (連載第 2 回)	
第 1 回冬羽と成鳥冬羽との識別	2
表紙の言葉	2
滋賀湖北・山本山のオオワシを訪ねて	6
推しの一枚 キマユムシクイ	7
木曾岬干拓地のカササギはどこから来たのか?	8
野鳥記録	10
ガンカモ調査終わる	13
今冬のミヤコドリが大幅に増加してます	14
理事会報告	15
代表、事務局の交代	15
事務局だより	16
探鳥会報告 (2023 年 10 月～2024 年 1 月)	16
編集後記	20

## 表紙の言葉

マヒワ

四日市市 三曾田 明

マイフィールドの北勢中央公園では春先にマヒワが群れて現れることがあります。最近では 2021 年、その前は 2011 年でした。

マヒワは主にスギ、マツ類などの針葉樹の種子を食べているそうですが、北勢中央公園では芝生の上で何かを食べています。タンポポ、ヨモギ、マツヨイグサ類の種子も食べるらしいので、まずはタンポポの種子は食べてるのでしょうか。その他、タンポポのないところでも背の低い草の茎をくわえていたので、その他の種子も食べている様子。

毎年来てくれるわけではないのが残念ですが、そのうちまた来てくれるだろうと期待しています。次は何を食べているのかももっとよく観察しようと思っています。



図 8. オオルリ オス 1W  
2006/9/24 伊賀市 青山高原  
大雨覆には幼羽が残り、幼羽の先端が  
白い：矢印

図 9. キビタキ オスメス不明 1W  
2006/9/24 伊賀市 青山高原  
GC は幼羽であり、先端に淡色斑があ  
る（下側の淡色部分：矢印）



### シロハラ、アカハラ、マミチャジナイ

秋に日本にやってくるシロハラでは成鳥 (AW) も当年生まれの 1W も大きさも色もほとんど違いがない。しかし、1W では大雨覆 (GC) の外側数枚に幼羽が残っており、幼羽の先端に淡色斑 (写真ではほとんど白く見える) があるので簡単に識別できる (図 10)。一方成鳥 (AW) では GC に淡色斑がない。シロハラは近くでじっくり見る機会があるので、この幼羽の存在は注意すれば確認できるであろう。野外で撮影された画像からも識別可能な場合がある (図 11、12)。

同様に、アカハラやマミチャジナイも同様に GC の淡色斑で第一回冬羽と成鳥は区別できる (図 13)。

これら大型ツグミ類については尾羽でも 1W と AW が区別できる。1W では尾羽が幼羽のままで、先端が尖っている (図 14)。一方 AW の尾羽は換羽して、先端が丸い (図 15)。この違いは後ろ姿を撮影すれば、野外でも簡単に識別できるだろう。

図 10 シロハラ 1W  
2007/1/2 津市 蛇谷池。GC の外側 5 ないし  
6 枚が幼羽であり、先  
端が白っぽい：矢印





図 11 シロハラ 1W 2017/4/23 四日市市  
北勢中央公園 三曾田 明撮影。GC に幼羽があり、  
先端は白い：矢印。



図 12 シロハラ AW 2016/12/31 四日市市  
北勢中央公園 三曾田 明撮影  
大雨覆（GC）に白い部分は無い：矢印。



図 13 マミチャジナイ 1W 2019/10/7  
北海道 稚内市。GC の少なくとも 4 枚は幼羽  
で先端が白い：矢印。



図 14 マミチャジナイ 1W 2019/10/7  
北海道 稚内市 尾羽の先端が尖っている。



図 15 シロハラ AW 2023/1/14  
津市 蛇谷池 尾羽の先端は丸い。

### ホオジロ類

ホオジロ類の GC は AW、1W の識別には使えない。尾羽の先端の形状が識別の決め手となる。一般に 1W の尾羽は幼羽で先端がとがっており、AW の尾羽は先端が丸い。オオジュリンでは両者がはっきりと区別できる。1 枚でも幼羽が残っていればその年に生まれた 1W である (図 16)。一方アオジでは 1W でもほとんどの個体が尾羽を換羽しており、1W と AW の識別には約立たない。ただ、稀に尾羽が幼羽のままの 1W を見かける。カシラダカ、ホオジロでも尾羽で 1W と AW は識別できる (図 17、18)。ただし、尾羽がすべて換羽した 1W がある程度はいると考えられるが、その比率は知られていない。

一方、ホオアカでは AW の尾羽、すなわち換羽後の尾羽も先端が尖り気味であり幼羽との尾羽との区別が難しい。秋にホオジロ類を見つけたら、後ろ姿を撮影してほしい。1W、AW の区別が着くかもしれない。



図 16 オオジュリン 1W 2019/9/8 北海道 稚内市 中央の3枚が換羽済みの新羽で、先端は丸い：矢印。その他は幼羽

### 1W と成鳥の比率

冬鳥が多いとか少ないとかがしばしば、話題となる。冬鳥の中にどれくらい当年生まれの鳥、すなわち 1W が含まれるのだろうか。その比率はその年の繁殖の成否に大きく依存するだろう。オオジュリンは長距離の渡りをする鳥である。渡りの成否も成鳥と当年生まれの 1W とで、差があろう。この比率は色々な要素により、変化するだろう。筆者が三重県員弁川中流で捕獲し、放鳥したオオジュリンのデータを表 1 に示す。越冬する鳥の 70%以上が 1W であった。意外と 1W の比率が高いのに気づかれるで

表 1 員弁川で越冬するオオジュリンの年齢 単位 (羽)

区分	調査年(1月～2月)	
	2020	2021
1W	138	146
AW	45	39
合計	183	185
1W の比率	0.75	0.79



図 17 カシラダカ メス 1W 2010/10/9 北海道 稚内市。尾羽の全てが幼羽。



図 18 ホオジロ 1W 2006/12/1 津市 安濃川中流。尾羽の全てが幼羽。

あろう。この 2 年で 1W の比率に大きな変化はなかった。もし、このような調査を続けられれば、年ごとの繁殖・渡りについての情報が得られるであろう。

### 謝辞

山階鳥類研究所 協力標識調査員 今野 怜氏には原稿を見ていただき、貴重な意見をいただいた。ここにお礼を申しあげる。

### 文献

オオルリ (*Cyanoptila cyanomelana*) キビタキ (*Ficedula narcissina*) 識別マニュアル 2009 年 3 月 環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

## 滋賀湖北・山本山のオオワシを訪ねて



津市 山下伸子

2023年12月6日、湖北へオオワシに会いに行ってきました。言わずと知れた有名な山本山のオオワシおばあちゃんは、三重からも毎年のように会いに行かれる方もいらっしゃると思います。

今回はお天気に恵まれ、山本山の前には30人程のカメラマンがオオワシに熱い視線を送っており、山本山の斜面にとまるオオワシ、終わりかけた紅葉をバックに飛ぶオオワシをゆっくり観察撮影することができました。

斜面にとまっているオオワシをハシブトガラス8羽がとり囲みモビング、オオワシはカラスを嫌っていったん飛び立ちまた斜面の木にとまりますが、執拗に追いかけてくるカラス。カラスにはカラスなりの事情があるのでしょうか、弱い者いじめならぬ強い者いじめにしか見えません。しばらくしてカラスの威嚇にたまりかねたのか、お腹がすいてきたのか、オオワシは再び飛び立ち、トビにも追われ北へ飛び去ってしまいました。戻ってくるのを期待して飛び去った方向を見ながら待つこと30分程、突然まさかの反対側の南からオオワシが現れたのに一人のカメラマンが気付きました。私達もあわてて方向転換し飛ぶ姿を確認し撮影しました。そして今度は先程より少し近くにとまってくれましたが枝かぶりですッキリとは見られません。近くに居るカラス達も枝が邪魔してか威嚇しなくなり、オオワシはやっとゆっくりできたようで羽繕いしていました。



紅葉をバックに飛翔するオオワシ

久しぶりにしっかり見られたオオワシは、はっきりした白と黒の羽色に太いくちばしと足の黄色いアクセントが美しく、際立つ大きさと鋭い目力はやはり王者の名にふさわしいワシでした。

山本山のオオワシのことを初めて知ったのは2007年1月の新聞に2日間に渡って掲載されたオオワシの記事でした。

その2日目は興味深いオオワシの一人遊び。枯れ枝を握り飛んだオオワシがわざと空中で枝を落とし、宙返りして再び枝をキャッチ。またその枝を足で握り、端を啜って笛をふくかのようなしぐさをみせたことが紹介されていました。求愛行動の練習なのでは？とも書かれていました。



ハシブトカラスからのモビング



8羽に取り囲まれ飛び立つオオワシ